

「深い学び」の視点から、学習活動の質を向上させるためには、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実させることが大切です。次の**A**～**D**などが授業づくりのポイントとして考えられます。

- A** 造形的な視点を基に目標を設定するとともに、発想や構想及び鑑賞をする際に働く学習の中心となる考えを明確にする。
- B** 対象等を造形的な視点で捉えさせ、気付きを引き出しながら、学習の中心となる考えを意識して活動できるようにする。
- C** 児童生徒が主体的に表現を試す、考えを交流するなど、造形的な視点で対象や事象を捉える場を充実させる。
- D** 表現や鑑賞の能力を発揮している児童生徒の姿を、学習の中心を軸として造形的な視点で見取り、指導と評価に生かす。

【題材例】中学校第2学年「多くの人にふるさとの味を伝えるパッケージデザイン」指導事項：A表現（1）イ（イ）他

A 【学習の中心】目的や条件を基に、形や色彩等を用いて美しく分かりやすく伝える生活の中でのデザインの働きについて考える。

導入

T：（パッケージを鑑賞して）どんなことに気付きましたか？

S1：辛い味のお菓子は、ギザギザした形が多いと思います。

S2：いちご味のお菓子は、赤系の色と丸みのある形を組み合わせています。甘い物が好きな人が思わず手に取りそうです。（略）

T：多くの人に商品の魅力を伝えるために大切なことは何だろう？

S1：多くの人がどう感じるのかを意識しながら、形や色などを工夫することだと思います。

T：教師
S：生徒

下線部は、**A**～**D**により、造形的な見方・考え方を働かせ、思いや考えを基に創造することに向かう生徒の姿です。

展開①

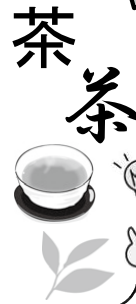
S1：お茶のイメージを伝えるために、和風な感じにしてみたけどどう？

S2：あまり和風な感じはしないなあ。

文字の形を工夫してみたら？

S1：そういえば辛い味のお菓子は文字もギザギザだったな。パソコンを使っているいろいろな文字の形を試してみよう。お茶の葉の形も生かすことができそうだ。

発想や構想



鑑賞

学習の中心を軸に、それぞれの資質・能力が相互に関連して働くようにすることを積み重ねましょう。

展開②

T：緑色の和紙を上手に使っているね。

S1：濃さの違う緑色の和紙を使うことで、味の深みを表現しました。

T：文字の形がお茶のイメージに合っているね。

S1：筆で書いたような書体に、お茶の葉の形を組み合わせることで、和風な感じを出せたと思います。

T：商品の魅力が伝わってくるよ。

技能

学習を終えて

S1：形や色などの働きによって気持ちや情報を伝えることができるのだな。より多くの人に伝えるためには、共通の感覚を意識することが大切なんだな。

このような考え方を、学びとして身に付けられるようにすることが重要です。



※本資料は中学校での活用を想定していますが、「学習の中心」の考え方は小学校でも共通するため参考にしてください。